



△ピース・シーズ▽
平和や命の大切さをいろんな視点から捉え、広げていく「種」が「ピース・シーズ」です。世界中に笑顔の花をたくさん咲かせるため、小学6年から高校3年までの49人が、自らのテーマを考え、取材し、執筆しています。

7月28日～8月8日に山口市で開かれたボーイスカウト国際大会「世界スカウトジャンボリー」の「ピースプログラム」で、広島を訪れた海外からのスカウトたちに、原爆被害や核兵器、平和に関するアンケートをしました。50カ国・地域の1031人から回答が寄せられました。

第15号 世界の若者@ヒロシマ

核兵器は嫌だ、と思った

1031人アンケート

印象に残ったものは？

被爆者の写真・遺品…心痛む

多くの人が、原爆資料館の展示物が印象に残った、と答えています。被爆者のやけどの写真や、人の影が残った石段、遺品、溶けたガラスなどです。「あまりにも恐ろしく感情に訴えかけるので吐き気がしました」と英国の16歳女子は答えました。鶴を折りながら亡くなった佐々木禎子さんの話を挙げた人もいました。

原爆・核兵器への認識は？

「戦争終えるため」違った

原爆の威力が予想以上でショックだった、というスカウトが目立ちました。英国の16歳男子は「原爆はホロコーストやナチス大虐殺を重ね残虐行為、衝撃的だった」と書いています。メキシコの16歳男子は「戦争を終わらせるために原爆が必要だったと思っていたが、今、ほかに平和的な方法があると分かった」と、考えの変化を記します。「ここを訪れて、核兵器の破壊的な影響について、考えがより強まった」とドイツ17歳女子という答えもありました。

平和を阻んでいるものは？

「テロ」最多「人種差別」続く

13項目から三つまで選んでもらい、382人。アンケートに答えた人のうち約4割が選んでいます。回答者が10人以上の25カ国・地域ごとに見ると、トルコが75.0%と最も高く、12人中9人が選んでいました。ベルギー66.7%、オランダ57.6%と続きます。テロが世界中の若い人にも注目されています。

自分自身ができることは？

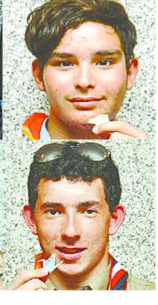
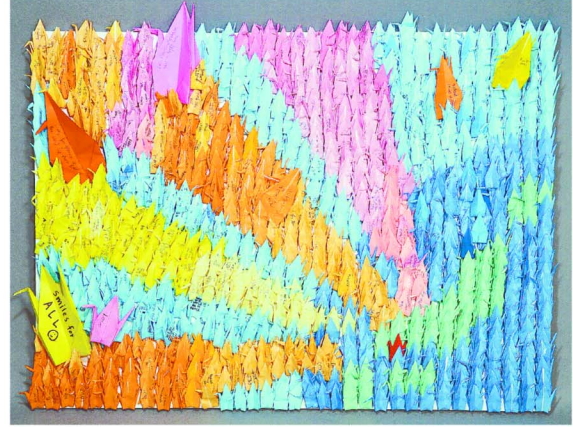
身近なところから平和発信

回答者の多くが「身近なところから平和を発信したい」と答えました。ジャンボリーという国際的な場での回答としては少し意外でしたが、スカウトたちが自分の住む地域で活動を続けているからこそその意見だという印象を受けました。

折り鶴でモザイクアート

私たちは、スカウトの皆さんに、折り鶴に平和のメッセージを書いてもらい、それを使ってモザイクアートを作りました。英語で話しかけるのはとても緊張したのですが、スカウトたちはこちらの不慣れな英語を理解して、快く受け入れて書いてくれました。

世界へ平和が広がっていくように、世界へ平和の思いとともに、平和が世界へ伝わってほしいです。



今回のピース・シーズは、高3河野新大、高2岩田壮、岡田春海、新本悠花、アリエル・ドゥタンブル、一井谷菜、島岡舞子、松尾友太郎、山下未来、高1小林薫、見崎麻梨菜、溝上希、山田千秋、山本菜々穂、中3岩田央、上岡弘美、岡田輝海、岡田美優、中川碧、中2川岸真緒、鬼頭里歩、平田佳子、藤井志穂、溝上藍、中1伊藤淳仁、フリリック・ス・ウォルシュ、川岸真織、斎藤幸歩、目黒実貴が担当しました。